

平成三十年（南伝仏紀二五六年・西暦2018年）を迎える除夜の鐘 百八法句

【第三一回】

八王子山了慶寺 聞光会・法話テープ友の会・安らぎの会・王子日曜学校

1 秋簾すだれ我れの五欲のかくれなし

函館市

高松 周翠

28 聞いて聴き気づくよろこび機のめざめ

鯖江市

山田 清人

2 秋の空夕日に光る仏さま

越前市

永田 ハナ

29 キヤラメルはおつとめのあとでおいしいな

王子白校

中山 みこ

3 秋晴れに参道はきて報恩講

越前市

釈 覚生

30 今日も無事恵みいただき南無阿弥陀仏

越前市

土橋 春子

4 朝な夕な仏とかわすなまんだぶ

福井市

下川 明秀

31 九十路くそじなる四恩報謝を心がけ

越前市

竹内 武夫

5 足いためベッドの上でお念仏

越前市

川崎 ツヤ子

32 愚痴いわず世話する家族ありがたし

鯖江市

山本 敏子

6 姉兄をまねて数珠かけ0歳児

越前市

藤枝 正子

33 口元に白寿の母も南無阿弥陀仏

越前市

万所 幸子

7 ありがたき五色の幕や大遠忌

越前市

宇野 はな江

34 ご催促ほつとお出ましナンマンダ

越前市

玉村 千代子

8 ありがたや命の鼓動生きる性さが

鯖江市

黒田 和代

35 こつこつと念仏となえ草むしり

鯖江市

黒田 和代

9 ありがたや押田で遇える仏法僧

鯖江市

堀 興作

36 今年また光いたたく報恩講

越前市

宇野 悦子

10 一枚の暦の重き師走かな

福井市

下川 達江

37 子どもたち親にとつても宝もの

王子白校

若林 綾子

11 今元氣感謝のころ家族愛

越前市

山田 和子

38 この人生幾多の恩に助けられ

越前市

宇野 勝巳

12 空(うつ)け者わたしのころナンマイダ

越前市

野村 德行

39 ご法話を聞いたあとから愚痴こぼす

町田市

北嶋 公代

13 うれしきやいろんな方にご縁あり

福井市

坂崎 吉郎

40 こぼれ出る南無阿弥陀仏朝しきり

越前市

竹内 咲子

14 恵信尼の心やすらぐご消息

福井市

中浜 好美

41 婚姻を仏前に告げ桜笑む

アメリカ

Starkey

15 お朝事の昼冷たし早口に

福井市

廣瀬 照子

42 死のネット消えた魂々に除夜の鐘

横濱市

藤枝 純毅

16 おおげさま僧に合わせて経を読む

越前市

下川 明秀

43 終活は健康第一お念仏

越前市

土橋 春子

17 おごそかに御遠忌終えてお念仏

鯖江市

福嶋 妙良

44 獣や魚のいのちを貰うこのいのち

八千代市

藤枝 昌彦

18 厳かに心にしみゆく除夜の鐘

越前市

野村 德行

45 正信偈因の言葉に恩を知る

越前市

青山 祐子

19 幼き日ただ鳴らしてた除夜の鐘

越前市

村上 豪祐

46 除夜の鐘唯念仏と世にひびく

越前市

上山 豊子

20 押田坂上がればそこに父と義母

越前市

田中 明浩

47 自力みた他力しかなし南無阿弥陀

越前市

玉村 早苗

21 お釈迦さまいつもみんなを見まもって

王子白校

泰田 澄瑛子

48 すぎし日を思い出してはただ念仏

越前市

宇野 はな江

22 お法りは南無と憑(た)めの阿弥陀さま

越前市

玉村 明

49 世界みな平和を願いお念仏

越前市

山田 法子

23 お念仏唯信ずべし救われり

町田市

北嶋 公代

50 説法に笑いもありて生きる糧

鯖江市

伊藤 まきの

24 彼の国の声を聞きとれ花水仙

福井市

佐々木 祐子

51 その実は無慚無愧なる懐手

函館市

高松 周翠

25 我慢して耐えて実らず八十年

越前市

宇野 勝巳

52 そむきても強き力にひきずられ

福井市

M・K

26 我慢して耐えて実らず八十年

越前市

宇野 勝巳

53 大丈夫音声念仏添い届く

福井市

杉田 時江

55	足袋サイズ逆転なるか三世代	福井市	下川 達江
56	父むせぶ独り娘の旅立てば	函館市	榎原 佐俣
57	勅使門紅葉映えて毫摂寺	福井市	加藤 勝治
58	妻の句を期しつつか介護春を待つ	福井市	鈴木 弘之
59	釣りあがる魚は私の命づな	越前市	万所 喜代元
60	尊さのみ光のなか除夜の鐘	越前市	熊野 幸治
61	年重ね自然の輝き満ち満ちて	越前市	千秋 マツ子
62	長生きは法の宝よありがた	越前市	玉村 嘉男
63	亡き夫仏法信じ安らかに	越前市	永田 ハナ
64	泣くはらに如来の慈悲が身にしみる	越前市	玉村 千代子
65	何事もナムアマダブツ日々新た	越前市	熊野 幸治
66	南無の二字問われつづけを憶念す	越前市	千秋 マツ子
67	寝息聞き今の幸せかみしめる	越前市	上山 豊子
68	願はくば 法蔵菩薩 再来場	横浜市	藤枝 純教
69	念仏して心ゆたかに日々おくる	鯖江市	村田 麗美子
70	念仏はいつもいつでもいつまでも	越前市	坂崎 吉郎
71	野良帰り西には弥陀の時雨(しぐれ)虹	越前市	坂崎 吉郎
72	初詣阿吽(あうん)の狗(いぬ)に学ばねば	越前市	土谷 ミチヲ
73	花まつりお釈迦さまに甘茶かけ	王子白校	前田 千咲
74	母想い心に沁みる了慶寺	東京都	小野 律子
75	春来ればいつの間やら喜寿念仏	中能登町	吉野 松子
76	ひといきもわがものなしのいのちかな	越前市	千秋 マツ子
77	百回忌迎えるよろこび子や孫と	鯖江市	福岡 妙良
78	深々と煩惱まみれと雪きたる	函館市	榎原 佐俣
79	服の縞世の移ろいを明示する	越前市	藤下 明順
80	仏教を学べるご縁に手を合わせ	アメリカ	藤枝 丁子
81	仏飯のほひ芳しきいちほまれ	越前市	土本 小夜子
82	仏前で誓いし娘(こら)に初光	越前市	藤枝 宏壽
83	仏壇から弥陀にまかせと夫つまの声	福井市	菅野 幸恵

84	仏壇に参る仲良し三世代	越前市	津郷 貴世子
85	船にのり海の青さに見とれたよ	王子白校	長田 佳歩
86	船にのり敦賀のみなどの見学だ	王子白校	成實 光壽
87	法悦のなか鯛(ひぐらし)の鳴き初むる	函館市	高松 周輝
88	報恩講あるらし寺の鐘ひびく	福井市	朝日 茂子
89	報恩講お斎の味に我忘る	鯖江市	田中 敬一
90	法話聞く妻と二人で相づちを	鯖江市	田中 敬一
91	煩惱の林の中で生きている	越前市	玉村 嘉男
92	マイカーで遠足いったよまたいきたい	王子白校	藤季 快
93	孫おぎやー御仏の愛ただ合掌	越前市	田中 久留美
94	待つよりも迎えて取れよ不退の位	越前市	玉村 明
95	みな呼べば無常の風もさわりなし	越前市	廣瀬 臺夫
96	みな忘れ南無阿弥陀仏だけ残る	鯖江市	大森 宏
97	みほとけに護られ亡夫(つま)の二十年	越前市	村上 俊子
98	胸に来る怒り抑えて南無阿弥陀仏	越前市	津郷 貴世子
99	聞光会迷わぬナビがここにあり	越前市	廣瀬 臺夫
100	病んで知る仏の救いと家族愛	越前市	青山 祐子
101	良し悪しもわが人生の彩りよ	越前市	熊野 ア子子
102	余生はただお念仏のみと師の教え	鯖江市	山本 敏子
103	代々の親無くばこの世に無きいのち	八十代市	藤枝 昌文
104	流転の身穢土でみちびく慈悲の声	越前市	玉村 明
105	蓮如忌に逢えて心も空も晴れ	鯖江市	山越 誠一
106	わが御身まあるいお月照らしてる	鯖江市	齋藤 多恵子
107	わが夫(つま)は急ぎて往きしお浄土へ	鯖江市	黒田 和代
108	若人に喜寿盛年と嘯(うそ)ぶけり	函館市	榎原 佐俣

☆今年はこの『百人法句』も第三一号という再スタートになり、国内外・県内外各地、七十一人から二百句の御投句がありました。(全句を記録しましたが、多くの句は掲載を割愛させていただきましたこと、お詫びします。)
 ☆どの句にも現実の人生の悲喜の中、仏法の味わいを感じられます。
 ☆来年もまたふるってご投句下さい。投句数は自由。十二月十日締切です。

